

街道を歩く

美濃路:05 起一足近一小熊

あじか



小熊の渡し跡



境川はかつては流量変化の激しい川であった。平常時は川幅20間がひとたび流水すると200間にもなったという。



あじか

阿遅加神社

社名からすると飛鳥時代まで遡るといふ。社前の道はかつて鎌倉街道が通っていた。



頓聴寺

山門に尾張国守護斯波義重筆の"萬松山"の扁額。寺宝に赤染衛門の画幅、徳川光友筆"竹に尾長鳥"の図があるという。



ひらき

披本陣 (小信中島村吉田家)

紀州藩の通行の時は人数が多く本陣、脇本陣だけで収容することができず寺院、旧家を利用した。吉田家が紀州藩の宿としたのが文化8年(1811)。その後も4回利用。現在 門が残る。嘉永元年~文久3年まで天誅組総裁藤本鉄石が隠れ住んだという。



河渡し

起宿とその近くにと船場が四箇所あった。上流から

定渡船場跡

こんびらさんの名で親しまれたと船場。昭和30年ごろまでボンボン船が通っていた。金刀比羅神社、常夜燈 通常街道筋

宮河戸渡船場跡

主に商家の荷物を扱う湊であった。神社に起の大銀杏

船橋河戸橋

将軍上洛や朝鮮通信使等渡河の場合280艘の船を使い船橋を架けた。慶長12年(1607)から明和元年(1764)の間に18回架けられた。

駒場の渡し

駒塚(羽島市)と富田間。尾張藩家老石河氏が名古屋への近道として利用。



この辺り鎌倉街道と美濃路の合流点、小熊の渡しまで続く鎌倉街道は小熊の渡しから墨俣上宿へ。

かつての街道筋

間の宿跡 かつては茶屋本陣。現加藤酒店。門が残る



狭い

足近川

常夜燈 金毘羅大権現

正木町須賀

不破一色の一里塚 小学校敷地内 不破家の門 不破一色の庄屋?



西方寺 (浄土真宗)

推古10年((602)善光如来を安置したのがはじまりという
推古20年(612)聖徳太子が山背大兄王の安産を願って七堂伽藍を建立し、自ら彫った阿弥陀如来を安置、三蔵院太子寺とした。斉衡3年(856)西方寺と改める。
嘉禎元年(1235)親鸞聖人が関東より京への途次ここに滞在、このとき浄土真宗と改宗。



西方寺への道しるべ

かつては幅2間、長さ7間 足近川はその昔雨天続きとなると暴れ川であった。



正木大浦 日興毛織KK

木曾川

美濃路道標 (民家の敷地内)

岩田橋

金刀比羅神社

銀杏と榎は羽島市 銘木百選

起川石燈台

明和7年建立

定渡船場跡

金刀比羅社

街道筋

濃尾大橋

宮河戸跡

船橋河戸跡

大明神社

頓聴寺

披本陣

三岸節子美術館

起工高

